

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

いのち～巣への興味～／学校法人長尾学園 長尾幼稚園（大阪府）

子どもたちが、園庭で生き物を発見したり、巣を見付けたりする姿はありますか？ 今回は、園庭にツバメの巣を発見した子どもたちが、カラスから卵を守ろうとする事例です。生き物に思いを馳せたり、命を守る方法を考えたりする姿に、「科学する心」の育ちを見取ることができます。子どもたちのアイデアを可視化する、子どもたちに見ることができない所は写真を撮るなどの環境の工夫の大切さも伝わってきます。



● ツバメ見つけた／5歳児

✦ ツバメの巣を守ろう／5月下旬

- 園舎にツバメが巣を作っていた。
- 子どもたちが、昨年のツバメのことを気にしていたので、カラスが巣を突いて赤ちゃんが巣から落ちてしまったことを教えた。保育室に戻ると「みんなでツバメを守ってあげよう」と話し合いが始まった。

Bちゃん：「カラスが巣に近付いてきたら、網でカラスを捕まえたらいい」

Cちゃん：「でも、ツバメもビックリしちゃうかなー」

みんな：「どうしよー？」

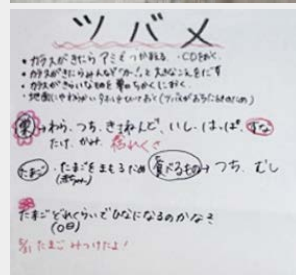
Dちゃん：「カラスが来たら、みんなで『カー』って大きな声で言って、カラスをびっくりさせる」

みんな：「それもツバメ、ビックリしちゃうかもー」

Yちゃん：「ずっと立って見てたらいいんかも」

みんな：「それやったら、ビックリすることもないかも」といい方法が見つからずにいたため、もう少しみんなで考えてみることにした。

- 保育者は、子どもたちから出てきたアイデアを受け止めて画用紙に書き、いつでも気付いたことがあれば書いていこうと提案した。



✦ 翌日

- 昨日の話の家で家族と考えて来た子どもたちがいたので、話し合いの場を設けた。

Yちゃん：「昨日、お家で考えてきたよ。やっぱり、網みたいなネットを巣にかけたらいんじゃない？」

Hちゃん：「そんなことしたら、ツバメはどうやって巣に入るの？」

みんな：「ツバメ、手で網だけられへんやろうしな。じゃーこれは、あかんな」

Yちゃん：「よく田んぼの所で、キラキラしている丸いものをぶらさげてるのん見たことある。CDみたいな。それをツバメの巣の近くにぶらさげたらカラス寄って来ないかも」



Hちゃん：「でも、キラキラしすぎたら、ツバメも寄ってこれないかも？」

Rちゃん：「ツバメ、卵産めなくなるかも…」

Yちゃん：「じゃあ、いい考えやと思ったけど、違うのを考えよう」

Sちゃん：「みんなで時間決めて、順番にツバメの巣を見とくのはどう？」

みんな：「いい考え！じゃー外で遊ぶ時に順番に見よう」「カラスが来たら、みんなで大きな声を出して追い払おう！」



- 出たアイデアを実践した結果、人がいるとカラスは来ることがなかった。隠れて見ている日中は現れなかった。ツバメの巣を守るために、自分たちはどうしたらいいのかいろいろと考える子どもの姿が見られた。

その後

子どもたちは、毎日ツバメの巣を観察する中で、小さなツバメが少しずつ何かを加えながら巣を作っているのを見付ける。そこで、巣が何で作られているのかに疑問をもつようになった。様々な意見が飛び交う中、みんなで考え合ったり、図鑑などで調べたりすることで、巣の材料が砂や枯れ草と分かり、よりツバメに興味をもつ姿が見られた。



✦ ツバメの巣が壊された！／6月中旬

- ツバメの巣をカラスに突かれ、巣が少し壊れ、卵が地面に落ちていた。朝、登園するなり、Oちゃんが、「先生！みんな！ツバメの巣が壊されているで」と、走って保育室に入ってきた。毎日観察していた子どもが、いち早くツバメの巣に気が付いた。

Bちゃん：「えっ！ちょっと見に行く」と言ってツバメの巣をみんなで見に行った。

Cちゃん：「あー、せっかく卵になって赤ちゃんツバメ見たかったのに、カラスなんてことするんやろ」

Yちゃん：「ツバメさーん守ってあげられなくてごめんね」などと、たくさんの言葉が出てきた。

- ツバメの巣はカラスに潰されてしまったが、それから、毎日のようにツバメの巣を見たり、話をしたりする子どもたちの姿が見られた。

みんな：「どんなツバメの赤ちゃんだったのかな」

Yちゃん：「色は何色なのかな？」

みんな：「また、巣を作って欲しいな」と、願う子どもの様子が多くあった。

✦ ツバメの姿を初めてみたよ／7月初旬

- ツバメが壊れた部分の巣を修正し、じっとその中で動かず何かを温めている姿が見られた。

Sちゃん：「また、卵産んでいるのかなー？」

Cちゃん：「ちょっと、覗いてみようか？」

- 子どもの言葉を受け止め、写真を撮ってみた。すると、卵が5つもあった。

Yちゃん：「今度こそ、ツバメの赤ちゃん見たい！」

- 子どもたちからは、絶対にカラスから守ってあげると強い意気込みが感じられた。早速、以前提案があったCDをぶら下げることになった。

- 「こうやって作ったらいいかな？」と、子どもたちでアイデアを出し合いながら作っていた。CDのぶら下げ方、どこで糸を繫げるか、どっちの向きがよいか等、話し合い、試行錯誤しながら行うことができた。

- 糸を付けたCDをぶら下げると、ツバメも初めは警戒していたが、時間が経つに連れて、巣の中に滞在する姿が見られ「やったー」「大成功！」と拍手するなど、全身で喜びを表していた。



✦ 考察

- 昨年、カラスに巣を壊されたことを知った子どもたちは、友達と話し合うことで、ツバメの立場になって考える姿に繋がった。子どもたちのアイデアを画用紙に書き可視化することで、その内容をもとに話し合う子どもたちの姿が見られ、「考える力」の育ちにも繋がったように感じる。
- ツバメの巣は何でできているのかと、巣の材料に疑問を感じて、自分たちで考えたり調べたりしたことは、ツバメへの興味を深めることに繋がった。
- 赤ちゃんツバメを見たかったという思いと、守ってあげられなかった思いが同時に感じられた。再びツバメが姿を見せ、壊された部分を修正している姿を発見した子どもたちには、今度こそ守ってあげたいという強い思いが生まれた。
- 今回の経験から、自分たちの考えた方法を試して、ツバメの成長を見ることができたことは子どもたちなりに満足感を味わった。また、命の大切さを実感することや、話し合いを通して互いの思いや考えが伝わり合うことの喜びにも繋がったように思われる。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」